

原子力防災訓練を実施しました

東通原子力発電所は、8月8日、発電所および構内協力会社の従業員約170名の参加により、電源機能等喪失を想定した総合訓練を実施しました。

今回の訓練では、大雨の影響による送電線からの外部電源の途絶に加え、非常用電源が故障し、発電所の全電源が喪失。原子炉内を冷却する機能が失われ、放射性物質の放出の恐れがある事象を想定。訓練の進行内容を事前に参加者に知らせない「ブラインド訓練」として実施しました。

今回の訓練結果から得られた改善事項を作業手順などに反映させるとともに、今後も様々な状況を想定した訓練を繰り返し実施し、更なる安全レベルの向上に向け、所員一丸となって取り組んでいきます。

【主な訓練項目と概要】

●対策本部訓練

集約した情報に基づき、対策を指示し、社内外への情報連絡を行う訓練



●現場偵察用ロボット操作訓練

防護服を着用した作業員がロボットの遠隔操作を行う訓練



●シミュレータ訓練

対策本部と連携しながら、原子炉の状況把握や運転操作を行う訓練



●電源確保訓練

電源車から発電所設備へ電源供給を行う訓練



～その他の訓練項目～

- 「モニタリング訓練」・・・モニタリングカーや可搬型モニタリングポストで空気中の放射線量率などを測定する訓練
- 「燃料補給訓練」・・・タンクローリーを用いて電源車や消防車等に軽油を補給する訓練
- 「代替注水訓練」・・・消防車を用いて防火水槽から原子炉に注水する訓練

など

大学および高等専門学校の学生を対象とした研修を行いました

東通原子力発電所は、8月27日から28日にかけて、八戸工業大学および八戸工業高等専門学校の学生計37名を対象に、研修*を行いました。

研修では、社員による講義や現場研修などを通じて原子力発電所の安全対策や発電の仕組み、発電所業務の内容等について学習しました。

参加者から、「この研修で原子力の安全性と必要性を認識することができた」、「原子力についてもっと詳しく理解していきたいと思った」などの感想が寄せられました。

今後も、このような研修を通じて、原子力エネルギー分野を支える人材の育成支援に努めてまいります。

※八戸工業大学が、経済産業省の「安全性向上原子力人材育成委託事業」に申請し採択され、当発電所が受け入れを行ったもの。



現場研修(原子力技術訓練棟)



現場研修(タービン建屋ギャラリー)



発電所員との技術情報交流

東通村の祭りでよさこい鳴子踊りを披露しました

東通原子力発電所のよさこい鳴子踊り愛好会総勢41名は、8月31日、「ひがしどおり来さまいフェスタ2014よさこい下北」でよさこい鳴子踊りを披露しました。



一丸となってダイナミックな踊りを披露



当日は、7月から練習に励んできた成果を存分に発揮し、東通の夏を盛り上げることができたと思います。皆さまより大きなご声援をいただき、ありがとうございました。発電所では、これからも地域の皆さまとのふれあいを大切にしていきたいと思います。